

SORA

web magazine 2019.may. vol.108

Travel

パヌニーヨット号で巡る コモドの美しいダイビングポイント

実は、人気はかなり高いコモドの海。ダイビングエリアとして、常に名前がTOPIにあがるわけではないけれど、いろんな海を経験したダイバーからは、「やっぱりコモドの海は最高!」という言葉をよく聞く。確かに行ってみないと分からない魅力に溢れている海だと思う(水中写真家が言うのもなんですが……)。今回は、インドネシアの海をこよなく愛するパヌニーヨット号に乗船して、コモドの海を満喫して来た!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

MAP
CLICK!



Indonesia

KOMODO



まずは、北の代表するポイント「タタワ プサール」

北にある「タタワ プサール」は、コモドの他のポイントとは特徴が違い、興味深いポイント。最大の特徴は、海底に多く繁茂するオレンジ色のソフトコーラル。潮の流れに乗りながら、そのオレンジ色に染まる世界を飛んでいく。ソフトコーラルには、キングヨハナダイなどの魚たちが舞い、この海の豊かさを教えてくれる。そして、これから始まるコモドの海の毎日に期待をせずにはいられなくなる。コーナーに近づくとも潮の流れは少し増し、コショウダイなどのお魚たちが姿を見せる。コーナーを過ぎて、潮の流れが緩やかになる頃、タイマイが泳いでる姿を3回ほど見かけた。ダイビングの前半と後半で、違う魅力を見せてくれる「タタワ プサール」。良い潮流のタイミングで、是非楽しんでほしい。

そして、大人気の「バトゥボロン」へ!

今回は、人気のポイント「バトゥボロン」に2回エントリーした。2日目の午後と3日目の朝一だった。午後にエントリーした時は潮流が早く、大きな根の、潮の流れのない壁でのダイビングとなった。エントリーして、青い海の中キラキラとキンギョハナダイなどのカラフルな魚の群れが、見える範囲のほぼ全てを埋め尽くしている。サンゴ礁も豊かで潮あたりが良く、常に栄養が供給されている海であることを目で知ることができる。ワイドで撮影した後は、少し水深を下げマクロの生き物を探し始めた。赤や黄色、オレンジ、緑など、ほぼ全ての色が海底を覆いつくし、そこでプレニーやウミウシなどがモデルを務めてくれる。うまく場所を考えれば、本当に素敵な写真を撮影することができる。フォト派ダイバーには堪らないポイントだと思う。私も潜りながら、「このポイントはキンギョハナダイなどの群れが素晴らしいのでワイドの視点ばかりになるが、実はマクロが本当に面白くて、1日3ダイブ、ここでマクロだけをしてみたい!」と心から思った。そんなことを考えていると、ガイドさんが水中で慌てている。彼の指差す方向には、なんとバンドウイルカが3頭泳いでいた。その下には、大きなメジロザメの一種も泳いでいる。15mmの超ワイドレンズを持っていたので、それほど接近することはできなかったが、それでも肉眼では十分に楽しむことができた。

Travel **Indonesia KOMODO**
コモド・インドネシア





ダイブクルーズだから見える水中景色

そして、翌日の早朝もエントリー。「ハトゥボロン」はとても人気のポイントで、ラブハンバジョーからのデイトリップのボートもどんどんとやってくる。10時くらいになるとたくさんのダイビングボートで賑わい、海中もダイバーが多くなる。しかし、クルーズ船はもっと早い時間にエントリーできるので、自分たちのグループだけで海中を賞し切ることができる。7時30分過ぎにエントリーして、海中はまだ少し太陽光が足りないと思ったが、潮の流れがないタイミングだったので、根の周囲を自由に楽しむことができた。キングヨハナダイなどの群れを眺め、マクロの生き物を撮影していた。ダイビングの後半で潮の流れが出てきたので、少し流れの上手の方に行くと、そこはクマザサハナムロの大群が大河のように流れ、それをロウニンアジの編隊が追いかけて回っていた。朝一ならではのハンティングの風景。圧倒的な迫力に、朝からお腹がいっぱいになって最高の早朝ダイブを終えた。



Travel Indonesia
KOMODO
コモド・インドネシア

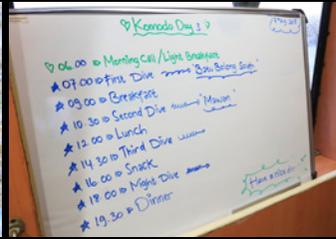


tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



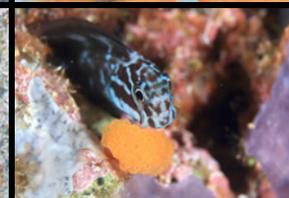
セントラルコモドの面白いポイント

南北のコモドダイビングエリアの中間ほどに、ピンクビーチがある。その沖合のポイントは、有名なダイビングポイントになっている。コモドで就航するダイビングクルーズ船をいくつか知っているが、その船によって、このピンクビーチと言うポイントは、微妙にビーチの左右で異なる。今回は、バヌニー号が潜るピンクビーチに潜水する。メインのピンクビーチに隣接するビーチの沖合でエントリーする。まず水深3mほどの海底に降り立ち、それから水深約15mまでの間でジグザグにダイビングしていく。海底は砂地で、レンベやアキラオの砂地のポイントに大変似ている。何の変哲も無い砂地で、ガイド陣がいくつもの面白い生き物を見つけてくれる。ヘアリーフロッグフィッシュの幼魚、アンボンスコーピオンフィッシュ、カミソリウオ、イッポンテグリなどなど。まるでマクロダイバー垂涎のマックポイントの王道を行くラインナップだ。潜水後、オーナーのジャクリンが、「どうだ！ 鍵井！ このポイント面白いだろ！ ここでナイトダイブもやるから、是非行こう！」と満面の笑みで声をかけてきた（笑）。





Travel



ほぼ毎晩開催されるナイトダイビング、行けばやっぱり面白い……

そして、ナイトダイビングへ。コースは、ほぼ日中と同じような感じで、最大水深10~13mまでの間をガイドさんについてジグザグに進んで行く。ナイトダイビングということで、エビカニ系がよく目立つ。他に一番嬉しかったのは、スターゲイザーフィッシュ（メガネウオの一種）に出会えたこと。大きさはバットの先ぐらいで、上を見上げて砂地に隠れていた。あと、コウイカの仲間もたくさん見られた。最初はガイドさんに見つけてもらい、「これは良い!」と撮影したが、後からたくさん出てきた。他、大きな貝とココナツの殻を利用して隠れるタコや、美しいホヤの上で交差をするウミウシなどを見て、大満足のナイトダイビングとなった。ナイトを終えて、迎いのディンギーボートに上がると、

頭上には、本当に落ちてきそうなくらいの距離で、満天の星空が広がっていた。オレンジ色に大きく輝く火星も見えた。海中で出会ったスターゲイザーフィッシュ（星を見上げる魚）のことを思い出した。透明度が高い日には、彼らにも水面を通してこの世界が見えるのかな? (そんなわけないか! 笑)。ナイトダイビングは、ほぼ毎晩開催され、日中では見られない生き物が闇の中で暗躍する。これがまた魅力的なコモドの海なのだ!

コモドの人気を支える理由の一つは、この南のエリア

今回のクルーズは、海況が安定せずに波が高く、南のエリアに行くことができなかったのだが、通常はもちろんクルーズのルートになっているので、これまで撮影した南のエリアの写真でご紹介。メインのポイントとなるのは、「カーニバルロック」。ここは、水深30mほどの海底からなるお椀状の海底山脈で、トップは5mほど。根の周囲はとにかくナンヨウキサンゴやイソギンチャク、ウミシダなどが繁茂し、海の中なのに、どちらかという緑のイメージで、まるで海の中にいる感じがある。海藻の海ではなく、もっと不思議なイメージの海中景観が広がる。少し視点をマクロにしてみると、そこそこに色鮮やかな生き物がいて、例えば、ホヤやカイメン、ウミウシなどなど、それがマクロの世界だけど、集合して大きな色のインパクトを与えてくれる。フォト派ダイバーにとっても、撮影のしがいがある被写体に事欠かない海であることは間違いない。摩訶不思議な生き物は、例えば、カラフルなシーアップ。和名をアデヤカキンコというのだけど、他ではあまりお見かけしない南のエリアで、ぜひ見て撮影して欲しい生き物である。インスタ映え?もすると思う……。隣に「トルペードアレイ」というポイントもあり、ここは青く長いホヤが繁殖し、面白い景観を見せてくれるのでお勧めだ。

Travel **Indonesia**
KOMODO
コモド・インドネシア



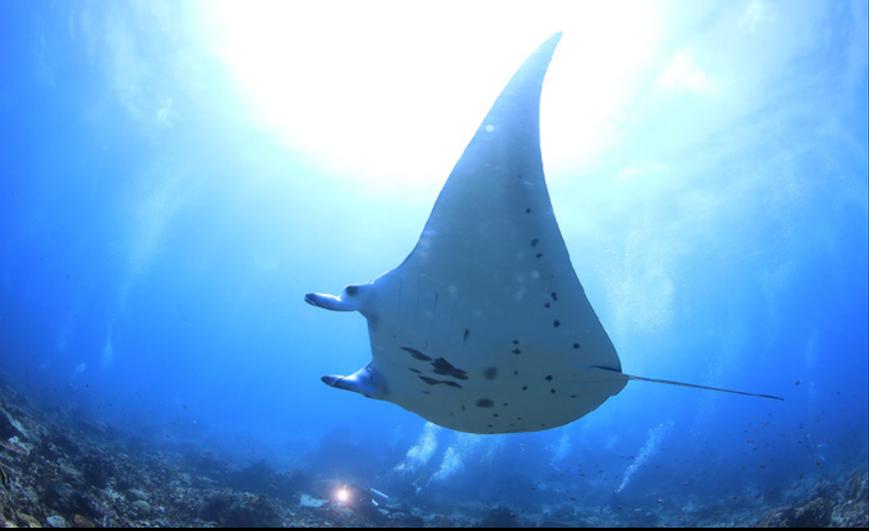


Indonesia
Travel KOMODO
コモド・インドネシア

すべてのダイバーを虜にする 北のBIGポイント!

朝1本目のダイビングは、キャステルロックへ。7時30分にブリーフィングを済ませ海にやって来たのに、もうポイントにはいくつもボートが集まっている。人気ポイントの証拠。エントリーして水深を下げていく。潮流が緩やかで、お魚の様子を見ながら潜降。根の上には、移動を開始したハギの群れを見つける。ちょうど潮止まりから、潮が動き始める時間に当たったようだ。ハギの行進に付いて行き、潮の当たる側の根に着くと、そこには壁のようなクマザサナムロの群れがあった。10匹以上のロウニンアジが飛び込んでいく。彼らのすべてが動き始めると、海全体が動いているような鼓動がする。ムレハタテダイの群れが、鮮やかな南国の海であることを演出する。ハギの群れは黒い塊となったり、青白い山脈のようになったり、海中に凸凹のデザインを形成する。エントリーするタイミングが最良で、朝の海のハイライトに立ち会うことができた。





Travel **Indonesia**
KOMODO
コモド・インドネシア

北のマンタポイントへGO!

今回は、北のマンタポイントとしてエントリーしたのが、「カラン マカッサル」と「ショットガン」だった。「カラン マカッサル」は、最大水深が15mのゴロタの海底が続き、潮の上手でエントリーして、潮流に乗りながらマンタとの出会いを探りに行く。エントリーしてまず驚くのは、潮流の早さ。その時々によるが、私たちがエントリーしたときはよい具合に流れていて、少しジェットコースターに乗るような感じで、水深9mほどの海底を飛んで行った。このポイントは出会い頭のマンタを楽しむスタイルで、クリーニングステーションではない。あまりに潮流が早く、ゴロタで海底に掴みどころがないので、カレントフックを持つことをお勧めする。マンタが出てくると海底に降り、潮の流れに抗いながら泳ぎ行くマンタを眺める。マンタのアクションは少ないが、少し博打のような出会いを楽しむことができる。

「ショットガン」は、マンタポイントというよりは、マンタとの出会いがあるというポイント。なだらかな砂地のドロップオフからエントリーして、水路の中に入っていく。海底は砂地で、いくつものサンゴが点在し、癒し系の景色が続いている。途中にダムのような大きな根が出てくる。そこはソフトコーラルが豊かに群生し、ロウニンアジやギンガメアジが小規模の群れを作っている。その細く一段と流れが強くなる水路を抜ける。なかなかの潮流の早さに、フィンキックにも力がこもる。今回は、その細い水路を抜けた後にマンタが登場した。水深10mほどの海底近くを泳いでいた。たくさんのダイバーに囲われるが、優雅に、強い潮流の中を泳いでいた。そして、そのまま流れて行った先の根で、ベアのハダカハオコゼを発見した。





Travel Indonesia
KOMODO
コモド・インドネシア



やはり美しい クリスタルロック

キャステルロックと並ぶ人気ポイントで、海底に大小二つの根があり、その周囲で潜っていく。根の周囲は、オレンジ色のソフトコーラルをメインに覆い尽くされ、とにかく鮮やかで美しい。キャステルロックが魚群を見ていくビッグポイントなら、クリスタルロックは、鮮やかな海中景観を存分に楽しむことができるポイントである。根のそこそこにびっしりとソフトコーラルが繁茂している。「このソフトコーラルは潮の流れで、しぼんだりすることはないの?」とガイドに聞くと、常にどちらからかの潮の流れがあるので、必ず根の片側で咲いていると話してくれた。もちろん魚群もいる。特に目立つのはイエロースイートリップスの群れ。そして、フレンドリーなマダラトビエイも居ついているそうだ。また、ピグミーシーホースなどもマクロの生き物も充実している。とにかく潜っているだけでも元気がもらえる、素晴らしいポイントだった。

最後はタタワクチル。本当に素晴らしいポイントだった。

パヌニーヨット号の魅力

タイ人オーナーのジャックリンさんが、インドネシアの海の魅力に惚れ込んで周遊しているパヌニーヨット号。コモド以外でも、ラジャアンパットやバンダ海など、シーズンによって、その時の旬の海をパヌニーヨット号で紹介してくれる。船は約2年前にリノベーションをし、新しく居心地が良い。広いリビングダイニングでは、食事や休憩、ブリーフィングなどが行われる。各客室はエアコンが完備。トイレ、シャワーは共同となるが、いつもスタッフが清潔に保っている。2階には、広いカメラルーム、サンデッキなどの優雅な空間がある。ダイビングもこの船の魅力であるが、食事が本当に美味しい。メインはタイ料理となるが、今回も乗船した日本人ゲストは、「美味しい! 美味しい!」と毎回、声をあげていた(笑)。ダイビングは後方にあるダイビングデッキから2隻のデインギーに乗り込み、各ダイビングポイントに向かう(乗っている時間は短い)。日本人ガイドは居らず英語での会話となるが、ガイドやスタッフ陣は、日本人ゲストのケアにも慣れているので、気持ち良くクルーズライフを楽しむことができる。

Travel **Indonesia KOMODO**
コモド・インドネシア



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく船

